

【問題の概要と問題毎の正答率】

問題番号	問題の概要	正答率 (%)
1	42を素因数分解する	82.7
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x+y=1 \\ y=x+4 \end{cases}$ を解く	94.7
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	85.3
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	86.7
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	98.7
6(1)	同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	96.0
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	96.0
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	85.3
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	64.0
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	76.0
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	92.0
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	80.0
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	98.7
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	68.0

【調査結果の分析と今後の改善方策】

【全体を通して】

- ・全体的に概ね学習内容が定着していると考えられる。

【特に課題と思われる点】

- ・与えられたデータを、適切に読み取り、根拠を明らかにしながら自分の考えを説明することが課題であった。「資料の活用」の授業だけでなく、日々の授業の中で、なぜそのような方法を選択したのか、なぜそのように考えたのかなど、数学的な表現を用いて、自身の考えを他者へ伝える場面を設定していく。
- ・明らかになったこと、導き出したことなどをもとに、さらにほかに分かることがないか考察することも課題として残った。今後は、学習問題、学習課題で設定された問いを解決できた後に、さらに発展的に考察できるような場面や生徒自身で新たに問題を作成する場面を設定していく。